



**BMW
MOTORRAD**

**BMW Motorrad 世界へようこそ。
www.bmw-motorrad.jp**



BMWカスタマー・インタラクティブ・センター (平日 9:00-19:00) 0120-269-437
BMW Motorrad正規ディーラーで、その魅力をご自身でお確かめください。

●掲載内容は2020年5月1日現在のもので、●BMW Motorrad 正規ディーラーでは、BMW独自のファイナンスプログラムをご利用いただけます。詳しい内容はセールス担当までおたずねください。●モデルによっては仕様が異なる場合があります。製品の仕様等は予告なく変更することがありますので、詳細は最寄りのBMW Motorrad 正規ディーラー各店までお問い合わせください。●各車両の写真はドイツ仕様であり、日本仕様とは細部が異なる場合があります。一部オプション装備を含みます。●本カタログに使用しているイメージ写真は日本国外で撮影を行っているため、交通法規が異なります。●記載の数値はドイツ本国発表値です。●記載の車両重量は全取り扱い品目に関する93/93/WEG に従い、空車時、走行可能状態、燃料満タン時の90%、オプション非装着。●DIN 空車状態に関する基準。●モデルによって、ご希望のカラーや仕様が注文生産と異なる場合があります。●本カタログ掲載の製品は、印刷インクのため実際の色とは異なって見える場合があります。●本カタログ掲載のイメージ写真は、車両のカラーバリエーションとは異なる場合があります。

新車保証／保証期間は初年度登録より3年間、走行距離無制限です。
生産国：ドイツ

BMW Motorrad 公式 Facebook® ページは下記 URL または QR から。

www.facebook.com/BMWMotorrad.Japan



お問い合わせは下記 BMW Motorrad 正規ディーラーへ

MAKE LIFE A RIDE



**BMW
MOTORRAD**

BMW MOTORRAD
R 18 FIRST EDITION

MAKE LIFE A RIDE

R 18 が切り拓く、 新たな歴史の1ページ。



伝統とは、進化すること。

1936年にレーシングモデルRS 500の公道仕様として登場したR 5。494ccのボクサーエンジンや油圧式テレスコピック式フォーク、量産市販車初のフットペダルによる変速方式など当時最先端の機能を数多く装備していた。

そのR 5のDNAを受け継ぐR 18の存在が表現するのは、立ち止まることなく歩みを続けてきたBMWの歴史そのもの。

伝統が持つ意味は、その進化の中にある。



～ R 5からR 18へ。受け継がれる血統～

R 5 Hommage



2016年5月に発表したR 5 Hommage (オマージュ)は、名車R 5を現代的解釈で再構築したコンセプトモデル。エンジンには当時のレーシングモデル同様にスーパーチャージャーをセットするほか、スチールチューブによる美しいダブルループフレームの中央部分には、R 5の時代には装着していなかったリアショックユニットも装備している。R 5 Hommageは、タイムレスな魅力を放つクラシックモデルR 5の基本的なコンポーネンツが現代にも通用することを世に知らしめた。

Concept R 18



2019年5月に登場したConcept R 18は、前年12月に発表したプロトタイプエンジン“Big Boxer”を用いて製作したコンセプトモデル。丹念に、そして美しく作り込んだボクサーエンジンと、オーブドライブシャフトをはじめダブルループフレームなど名車R 5のDNAを随所に盛り込んだデザインワーク。その佇まいは、世界中のモーターサイクルファンを大きく揺さぶりながら、BMW Motorradが育んできた歴史の深さとその連続性をあらためて表現したモデルとなった。

Concept R 18 / 2



2019年11月のEICMA (ミラノショー)で発表したConcept R 18 / 2。クラシックな装いを全面に打ち出したConcept R 18とは一線を画し、スポーティでモダン、そして新開発の排気量1,802cc・大排気量OHVエンジン=“Big Boxer”が秘めた力強さを表現したモデル。フレーム、エンジン、サスペンションなど基本的な車体構成要素はConcept R 18と同一としながらも、キャストホイールやビキニカウルを装着して、その先に広がるカスタマイズの無限の可能性を全身でアピールしたドラッグスター。

Engine

BMW Motorradの伝統であり象徴でもある水平対向ボクサーエンジン。R 18のために用意したのは、“Big Boxer”と名付けた完全新開発のボクサーエンジンだ。その排気量は1,802ccで、これまでBMWが生み出してきたボクサーエンジンの中では最大排気量を誇る。ユニークなのはそのメカニズムだ。バルブ駆動方式には、カムシャフトがプッシュロッドを駆動させることでバルブを開閉するOHV（オーバーヘッドバルブ）方式を採用する。これはR5をはじめ、戦後のR 50やR 69、そして90年代まで生産したR 100シリーズまで一貫して採用した伝統のバルブ駆動方式で、左右のシリンダー上に鎮座する美しいプッシュロッドタワーがその証。R 18では各気筒あたり4本のバルブを備えている。また、エンジンの冷却方式には冷却水を使用しない空油冷方式を採用。シリンダーに刻まれた冷却フィンが古き良き時代を彷彿とさせながら、シンプルな機能美を静かに主張する。



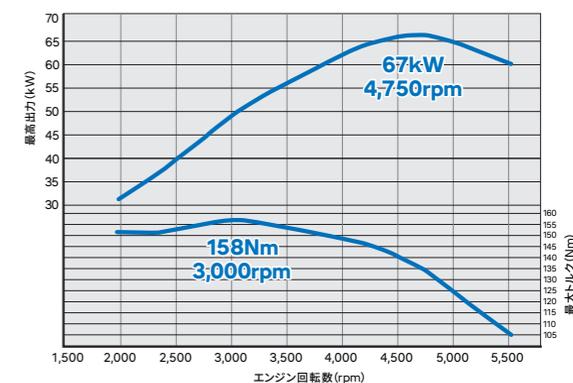
極上のトルクとサウンド。 1,802ccを誇るOHV “Big Boxer”の誘惑。



エンジン諸元	
排気量	1,802cc
ボア×ストローク	107.1×100.0mm
最高出力	67kW (91hp) / 4,750rpm
最大トルク	158Nm / 3,000rpm
型式	空/油冷式2気筒4ストローク・水平対向2気筒OHVエンジン
圧縮比/燃料	9.6:1 / 無鉛プレミアム(95~98RON)
気筒当たりバルブ数	4

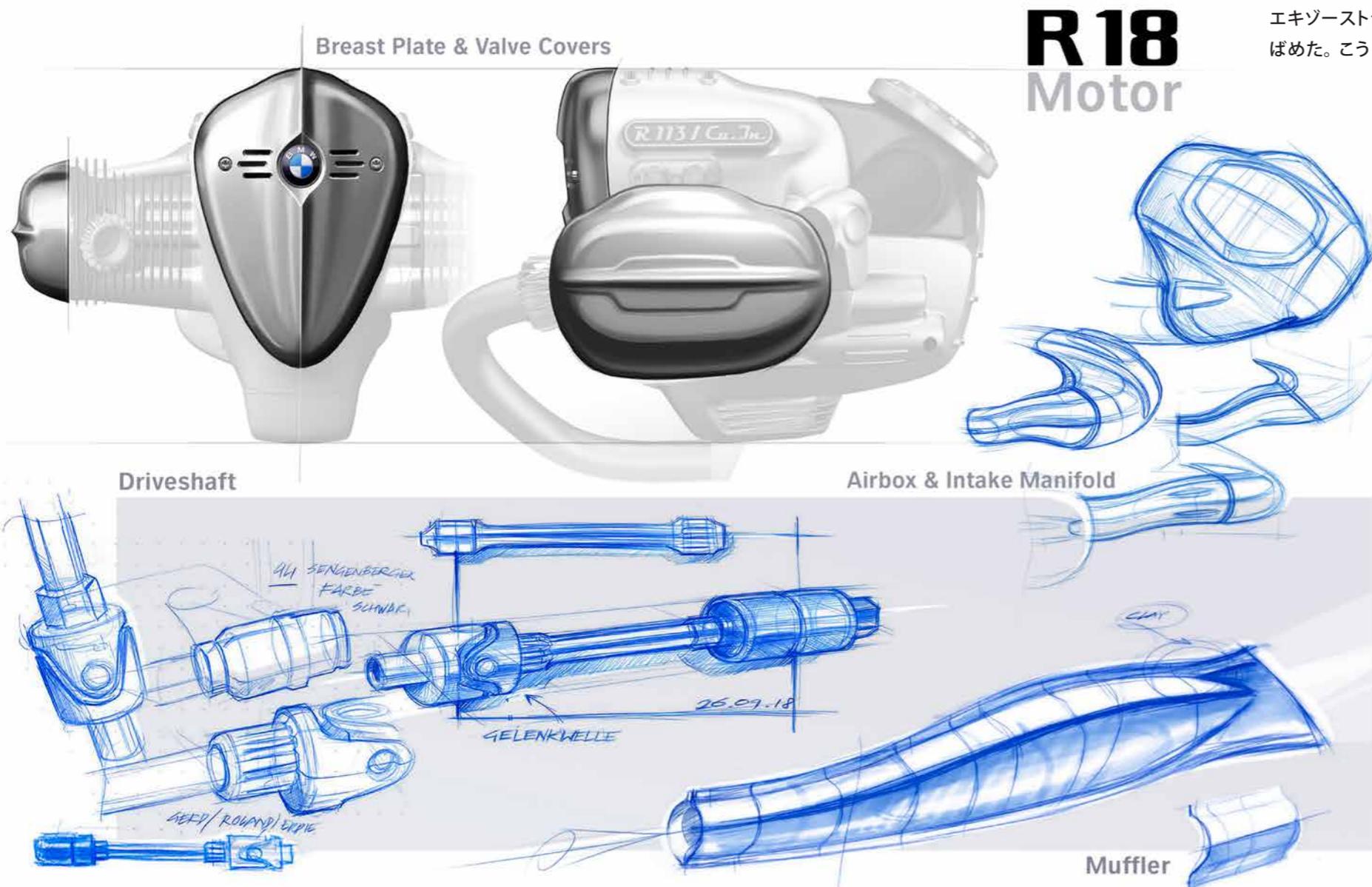
* 本国仕様にて掲載しているため、日本仕様とは細部が異なる場合があります。

この“Big Boxer”のボア×ストロークは107.1mm×100.0mm、つまり直径10cm超の巨大なピストンが左右のシリンダーで躍動する。その結果、最高出力は67kW (91hp) / 4,750rpm、さらにエンジン回転数わずか3,000rpmで最大トルク158Nmを発生するだけでなく、2,000rpmから4,000rpmの領域では150Nmもの大トルクをいつでも絞り出すことができるのも特筆すべきポイント。そんな誰もが経験したことのない怒涛のトルクフィールは、BMW Motorradが誇るエンジンマネジメントシステムBMS-Oが最適に制御。状況に合わせて出力特性を選択できる3種のライディングモード切り替えや、ASC（オートスタビリティコントロール）などとの組み合わせで、安全かつダイナミックなライダビリティをもたらす。そして、そんな喜びをさらなる高みへと導く、丹念にサウンドチューニングされた“Big Boxer”の咆哮。すべての感覚を刺激する、強烈な個性をその手に。



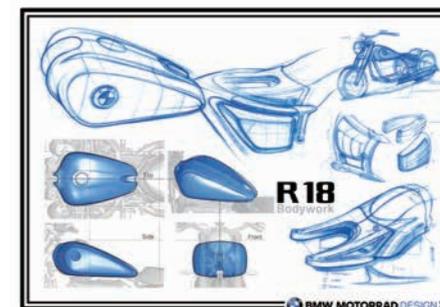
自らの歴史を再構築する誇り。

モダンテクノロジーとオーセンティックなマテリアルの融合は、その美しいデザインワークに結実する。Tear-Drop (滴型)のアイコンックなフューエルタンクは、R5を祖として60年代までのRシリーズに採用していたトラディショナルなフォルム。そして、その美しいタンクと調和する緩やかな曲線で構成された前後のフェンダーに描かれる線幅の異なる2本の白いストライプもまた、初代モデルから脈々と受け継ぐBMW Rシリーズを象徴する大きなひとつ。こうしたディテールを際立たせているのは、車体の細部に至るまで徹底的に追い込んだデザインワークだ。エドガー・ハインリッヒ率いるBMW Motorradのデザインチームは、外装パーツはもとより、スチールチューブを用いたダブルループフレームやエンジン、エキゾーストシステム、オープンドライブシャフトなど、R18を構成するすべてのパートにおいて丹念に検証を重ね、随所にBMWのDNAを散りばめた。こうして、そこに佇んでいるだけでBMWの歴史を静かに語り始めるような新しいモーターサイクルが完成した。



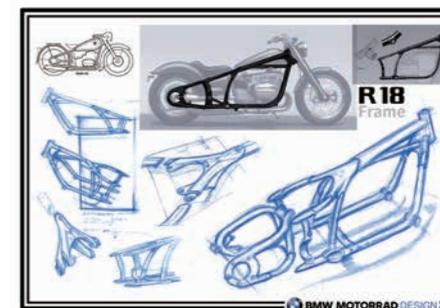
メカニカルパートにも反映した美しさへのこだわり

通常のモデルとは異なるデザインプロセスによって誕生したR18。モーターサイクルとしての根幹に関わるメカニカルパートにおいても注意深く作り込んでいる。エンジンの真正面に大きな面積で配置したベルトカバーや、左右に大きく突き出したシリンダーヘッドを覆うバルブカバー、そして混合気を燃焼室内部へ導くインテークマニフォールドとフィッシュテールのサイレンサーなど、エンジン各部は特に入念にデザイン。さらにオープンドライブシャフトにおいては、ユニバーサルジョイントの詳細に至るまでスケッチを起こして、シンプルな機能美を追求している。



歴史を表現する2本のピンストライプ

BMW初のモーターサイクルとなったR32の時代から60年代のRシリーズまで数多くのモデルに採用したことで、BMWの特徴のひとつとして知られるようになった2本の白いピンストライプ。漆黒のボディに浮かび上がる太い線と細い線の組み合わせだけで、車体のシルエットを主張しながら無機質な金属表面に豊かな表情を生み出し、どんな角度から車体を一瞥してもその存在感をたしかに認識することができる外観上のアクセントは、創業当時から職人(その多くは熟練工として活躍した女性たち)の手作業によって引かれていたもの。R18では、そんな由緒正しいピンストライプをフューエルタンクとリアフェンダーにあしらうことでBMWのクラフトマンシップを現代に再び体現する。



R5のスタイルを現代に再興するフレーム

低く長く、伸びやかに。“Big Boxer”を抱え込み、優雅なスタイリングを生み出すダブルループフレームはR5のDNAそのもの。それが意味するのはボクサーエンジンとドライブシャフトの組み合わせから導き出した、当時のエンジニアリングの確かさでもある。2本のダウンチューブとステアリングヘッドからまっすぐにリアアックスルへと向かうチューブが織りなす美しいトライアングル、そしてファイナルドライブハウジングを取り囲む美しいループ。リアサスペンションを新たに設けながらもリジッドフレームのようなシンプルさを持ち合わせている。

Styling & Feature

クラシックな装いに秘めたイノベーション。

いつの時代でも最先端のテクノロジーを盛り込み、ライディングプレジャー＝“駆けぬける歓び”を追い求める。創業以来貫き通してきたBMW Motorradのフィロソフィーは、R 18でも決して変わることはない。約1世紀にもおよぶ歴史を表現するクラシックな装いに秘めたのは、これまでのどのモデルにも表現してきたBMW Motorradが誇るテクノロジーの数々。ライダーのハートを揺さぶるデザインとエンジン、そしてあらゆる状況で安全性を高める洗練されたデバイス。そのすべてがR 18のアイデンティティ。



1. OHV “Big Boxer” エンジン
2. クラシックな美しいデザイン
3. ダブルループ式鋼管フレーム
4. フィッシュテールマフラー
5. オープンドライブシャフト
6. LEDアダプティブヘッドライト
7. LEDターンシグナル&テールランプ
8. 切替式ライディングモード
9. BMW Motorrad インテグラルABS
10. ヒルスタートコントロール&リバースアシスト
11. ASC (オートスタビリティコントロール)

テクニカルデータおよび主要装備

ヘッドライト	LEDロービーム (プロジェクション・モジュール付き) LEDハイビーム (プロジェクション・モジュール付き)
クラッチ	油圧式、乾式単板クラッチ
ギヤボックス	常時噛合い式6速ギヤボックス
フレーム構造	ダブルループ鋼管フレーム
フロントサスペンション	テレスコピック・フォーク、フォーク・チューブ径49mm
リアサスペンション	カンチレバー
フロントブレーキ	ツイン・ディスク・ブレーキ、 \varnothing 300mm
リアブレーキ	シングル・ディスク・ブレーキ、 \varnothing 300mm
ABS	BMW Motorrad インテグラルABS (パーシャルリー・インテグラル)
ホイール	ワイヤースポーク・ホイール
フロントリム	3.5×19インチ
リアリム	5.0×16インチ
フロントタイヤ	120/70 R 19 または B 19 (製造メーカーにより異なる)
リアタイヤ	180/65 B 16
全長	2,440mm
全幅 (ミラー含む)	964mm
シート高	690mm
車両重量	345kg ※ガイドライン VO (EU) 168/2013 による。液体を含む、標準装備、燃料タンク90%以上
燃料タンク容量	16L (リザーブ容量約4L)

※本国仕様にて掲載しているため、日本仕様とは細部が異なる場合があります。

モダンテクノロジーが導く、 走りの新次元。

その歴史を全身で表現しながらも、最先端のテクノロジーも満載するR18。常にその時代のエッジであること。BMWのフィロソフィーはここにも——。



非アダプティブヘッドライト車



アダプティブヘッドライト車

LEDアダプティブヘッドライト

灯火類にはすべてLEDを採用するR18。ヘッドライトには夜間のライディングをサポートするLEDアダプティブヘッドライトを搭載する。速度約10 km/h以上で車体が7度以上傾くと、内蔵された傾斜センサーが傾きを検知。ヘッドライトユニット内に配置されたターニング用LEDライトを照射することで、コーナーのさらに奥を明るく照らします。その照射範囲はバンク角が25度に至っても効果的で、大きな安心感を生み出す。



3種のライディングモード切替

“Big Boxer”では3種のライディングモードを搭載している。「Rain」モードではスロットルレスポンスが穏やかになり、ウェット路面でも安心のパワーデリバリーを実現。「Roll」モードではスロットル制御の最適化によりテイルライドに対応。そして「Rock」モードでは“Big Boxer”が持つポテンシャルをすべて解き放つ、ダイナミックな走りを堪能することができる。



BMW Motorrad インテグラルABS

前後共にφ300mmのディスクローターを装備。そこにBMW MotorradインテグラルABSを搭載する。このABSシステムは、フロントブレーキを握るとリアブレーキも作動するパーシャリー・インテグラル方式を採用している。一方、ブレーキペダルを踏み込んだときにはリアブレーキのみが作動するので、ライダーの予期しない不快なビッチングを防いでいる。



LEDターンシグナル&テールランプ

前後のターンシグナルとテールランプにはLED方式を採用し、視認性を高めるだけでなく、高いデザイン性とロングライフを実現。リアのターンシグナルとテール&ストップランプは一体型としてリア周りのデザインはよりシンプルに。オプションとして、急制動時にブレーキランプを点滅させて後続車に注意を促す、ダイナミックブレーキランプも設定する。



ヒルスタートコントロール&リバースアシスト

フロントブレーキを握る、またはリアブレーキを踏み込むことで車体を安定させるヒルスタートコントロールで坂道発進をサポートするほか、リバースアシストも標準装備。サイドスタンドを畳み、アイドル状態(ギアはN)でエンジン左後方のセレクターレバーをRポジションへ回し、ハンドルのスターターボタンを押し込むと跨ったままゆっくりと車体を後退させることが可能。



オープンドライブシャフト

BMW初のモーターサイクルR32からボクサーエンジンとの組み合わせで脈々と受け継ぐシャフトドライブ機構。R18では、ユニット本体を露出させるオープンドライブシャフトを採用する。シャフト、ユニバーサルジョイントなどユニット各部の表面はR5の時代と同じニッケル・プレートメッキで仕上げ、その美しい機構を目で楽しむことができる。



ASC (オートスタビリティコントロール)

安全性をさらに高める機能としてASC (オートスタビリティコントロール)を搭載。エンジンのトルクを制御するMSR (ドラッグトルクコントロール)とエンジンモード切り替えとの併用により、路面状況やエンジンモード別の出力特性に合わせてリアタイヤの挙動を最適に制御。ライダーのマインドをスポイルすることなく、最大限の安全性を確保する。

The First Edition



艶やかなブラックペイントに映える2本のピンストライプとクラシックなBMWエンブレム。



常に視界へ入るバルブカバーやインタータマニフォルドカバーにも上質な輝きをプラス。



鈍い輝きを放つ左右のマスターシリンダーとトップキャップ。“BERLIN BUILT”の静かなる主張。



ブレーキペダルからマスターシリンダーに至るまで丹念に研磨。その輝きは細部にまで。

プレミアムな 質感を備えた ファースト・エディション。

漆黒とクロームメッキのコントラストが主張する、ファースト・エディションだけの特別な世界。



<ファースト・エディション>
初期生産にのみ設定された特別仕様車

日本仕様には下記装備も付帯。

- ヒルスタートコントロール
- LEDアダプティブヘッドライト
- フロアボード
- グリップ・ヒーター
- リバースアシスト
- パッセンジャー・キット
- ロック付き燃料キャップ

R18

FIRST EDITION

左右のサイドカバーには、上質なクロームメッキを施した専用の立体エンブレムをセット。



座面にはクラシックなBMWロゴを、印象的なピンストライプはフエンダー上でも美しい曲線を描く。



ハンドルポストからレバー、グリップエンド、ミラーまで、あらゆる角度からその輝きを楽しむ。



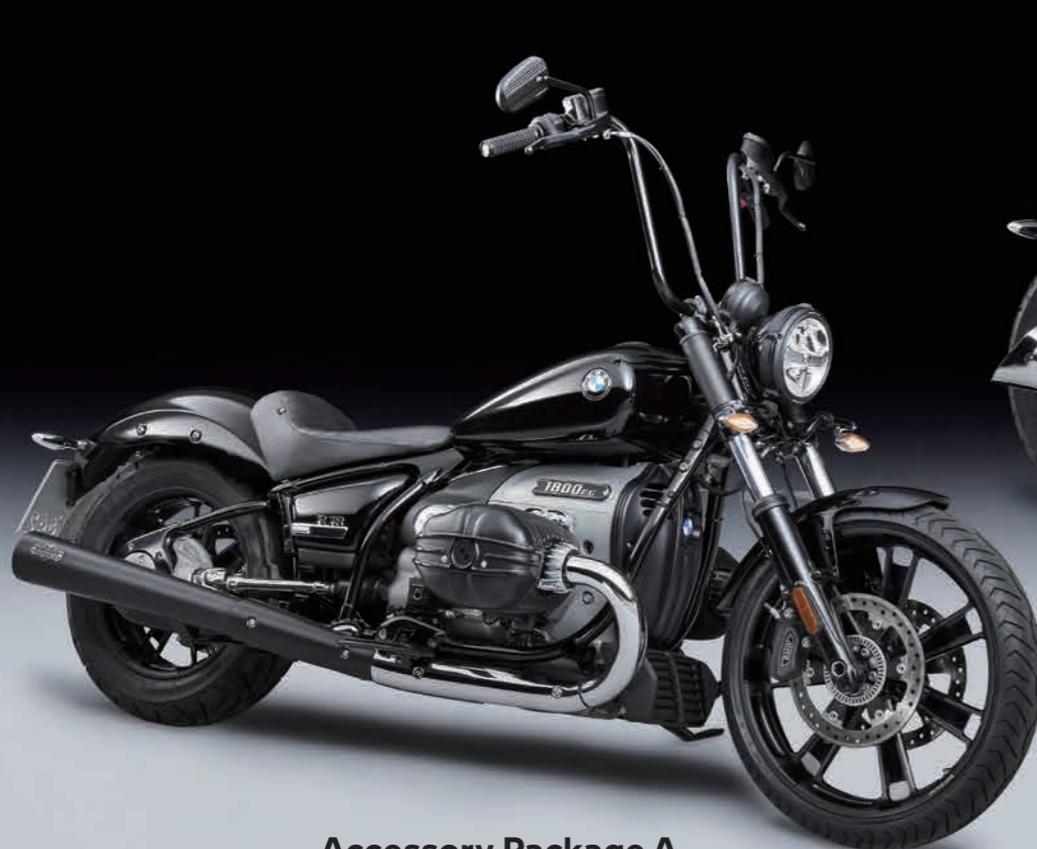
左右のブレーキキャリアーまでもがクロームメッキに包まれる。足元にもキラリと輝くワンポイントを。

個性を解き放つ自由自在なカスタム。

誰もが自由にカスタムを楽しむ。これも開発のキーコンセプト。あらゆる長さのハンドルに対応するスロットルやブレーキ&クラッチケーブルをはじめ、
イージーに取り外しが可能なリアフェンダー、エンジンオイルを気にせず交換できるエンジンカバー 類。それらすべてが個性を演出するためのこだわり。
クラシックからモダンまであらゆるスタイルを許容する車体と、最高品質のアクセサリが指し示すのは、R 18が持つ無限の可能性 ―。

Accessory Package B

優雅なライディングを演出するワイドハンドルバーとスプリングを備えたソロシート、そして
ヴィンテージ感をさらに高めるフラットフェンダー。圧倒的な存在感を放つ “Big Boxer” と
流麗なフレームラインを際立たせるためのロジックは、そのミニマムなデコレーションに。



Accessory Package A

天を仰ぐエイブハンガーが主張するのは自由の精神。21インチの大径フロントホイール、ベルト
カバー&バルブカバー、サイレンサーなどの主要パーツを、あえてマットブラックで統一することで
“Big Boxer” の存在感をより極めたモダンなアーバンクルーザー。



Accessory Package C

荒々しくも精緻な、アルミビレット = “Machined” パーツが高らかにアピールするのは “Big Boxer”
が秘めた底知れぬポテンシャル。ナローなハンドルが生み出すタイトなライディングポジション
に身を任せ、怒濤のトルクを武器に街を駆けぬけるストリートドラッガー。

自分だけの1台を作り上げてゆく喜び。

自由なカスタムを目指して、一流のパーツブランドとのコラボレーション。オーナーが抱くその想いを、現実のものとする上質なアクセサリ一群。



Accessory Package A

① ハイライズなエイブハンガー、Roland Sands Design (以下RSD) によるアルミビレット = “Machined” シリーズのヘッドライト&メーターハウジング、ミラー、グリップ、レバー、ターンシグナル用口ワリングキットの装着例。スロットルケーブルをはじめ、電装ハーネス、ブレーキ&クラッチの油圧ホースも高いハンドルに合わせた専用品のレングスを用意。

② RSD製 “Machined” ツートンブラック仕様のアルミビレットホイール。7本スポーク仕様でホイール径はフロント21インチ、リア16インチ。

③ CNCマシニングによる美しい切削痕を楽しむデザインRSD製 “Machined”バルブカバー。エンジン前方のベルトカバーとセットで使いたい。

④ ドラッグレースなどで活躍するアメリカの老舗コンストラクター、Vance & Hines製のサイレンサー。排気効率はもちろん、そのサウンドチューニングにも徹底的にこだわった一品。装着されるメタルプレートでは、“Big Boxer”のシルエットの中にVance & Hinesのロゴをレイアウト。

Accessory Package B

⑤ リラックスしたポジションでライディングを楽しむワイドハンドルの装着例。ハンドルポスト、レバー、ミラーはいずれもRSD製で、切削面とブラックアルマイトのコントラストを堪能できるデザイン。

⑥ クラッチ&ブレーキマスターシリンダーのトップキャップはRSD製 “Machined” でいずれもBMWエンブレム入り。美しいブラックアルマイトはクロームメッキとの相性も抜群。

⑦ “Big Boxer”の存在感を引き立てるRSD製 “Machined”バルブカバー。CNCマシニングによるフルビレット品ながら、丹念にポリッシュされており、まるでキャスト(鋳物)のような風合いを持つ。中央にはBMWエンブレムを配置。

⑧ スプリングによる緩衝機構を備えたソロシート。往時の名車からインスパイアされたクラシックなデザインを採用する。

⑨ ナンバープレートのリロケットキットとフラットフェンダーの装着例。180幅のリアタイヤを露出させるアビールも。

Accessory Package C

⑩ シリンダー上のプッシュロッドカバーの存在をより際立たせるRSD製 “Machined”バルブカバー。③のバルブカバーと同デザインながら、グロス感に溢れるアルマイト仕上げにより異なる質感を演出。

⑪ RSD製 “Machined”ミラーは、⑥と同様に3本のピレットラインがアクセント。ショートステーの採用により、車両全体のフォルムを引き締める。

⑫ アメリカの老舗ハンドメイドシートブランド “Mustang Seat”とのコラボレーションで生まれた、スポーティなファストバックシート。“Big Boxer”が絞り出す異次元のトルクを確実に受け止めるバックレストや、疲労軽減を考慮したエルゴノミクスなど、老舗ならではのこだわりは随所に。

⑬ 丹念なポリッシュ仕上げとした “Vance & Hines”製のサイレンサー。④と同様に各シリンダーで独立したエキゾーストシステムを採用。

⑭ RSD製 “Machined” フロントホイール。②と同デザイン・同サイズながら切削面を全面に打ち出したツートンカラーがモダンな雰囲気。前後セット。

※こちらのページで紹介している車両およびアクセサリはドイツ本国発表に基づいた内容となります。(日本国内導入未定) 今後の最新情報については、ホームページをご覧ください。お近くのBMW Motorrad正規ディーラーまでお問合せ下さい。

カスタムバイクから始まった、R18プロジェクト



Custom Works ZON "Departed"



BMW史上最大排気量を誇る空油冷OHVエンジン“Big Boxer”の存在を初めて公にしたのは、2018年12月に横浜で開催された“27th Annual YOKOHAMA HOT ROD CUSTOM SHOW 2018”の会場だった。しかもそれは日本のトップビルダー“CUSTOM WORKS ZON”が手がけたカスタムバイクとして登場。その衝撃は瞬間に全世界へ拡散された。

吉澤雄一と植田良和、2人のビルダーが生み出したのは、フロント21インチ、リア26インチの大径ホイールを備え、ワンオフされたスチールチューブフレームとアルミ叩き出しの外装を纏う“Departed”と名付けられたマシンだった。BMW Motorradが彼らに託したのは、プロトタイプの“Big Boxer”とシャフトドライブユニットのみ。彼らはBMWの歴史への敬意をマシンに込めながら、半年にも及ぶ製作期間を経て“Big Boxer”の魅力を中心に打ち出したマシンをビルドしたのだった。



Revival Cycles “Revival Birdcage”

アメリカ・テキサス州オースティンに工房を構えるRevival Cycles。モダン・エンジニアリングをベースとして、意欲的なカスタムバイクをビルドする全米トップビルダーが自身のオーガナイズするカスタムショー“The Handbuilt Motorcycle Show 2019”の会場でローンチしたのが、この“Revival Birdcage”だ。

“Big Boxer”を抱くのは、60年代のレーシングカーのフレームワークにインスパイアされたというバードケージフレーム。延べ134ピースにも及ぶφ9mm径のチタニウムパイプを組み合わせ、ステアリングヘッドからファイナルドライブまでを一直線に結ぶ印象的なシルエットを生み出した。どの角度からでも“Big Boxer”の存在感を顕わにするメタルワークはビルダー、アラン・シユトゥールベルクの信条。そこに前後23インチホイールと独創的なサスペンションを組み合わせ、アヴァンギャルドな1台を完成させた。



～ カスタムビルダーたちが語る R 18 ～

2020年2月某日。日本のカスタムビルダーを集めてプロトタイプのR 18をアンベールするシークレットイベントを開催した。発表前のR 18をいち早く見るようになった国内トップビルダーたちが語る、R 18の印象とその期待度。

「どこから見ても面白いエンジン（吉澤）」 「いろんなスタイルに持っていける（植田）」

Custom Works ZON / 吉澤 雄一 & 植田 良和

2018年のYOKOHAMA HOT ROD CUSTOM SHOWで“Departed”を発表したCustom Works ZON。「どんな方向にも振り幅のあるエンジン。アメリカ大陸を走るイメージもできる（吉澤）」「完璧な自信を持って基本デザインが出来上がっている（植田）」と、プロジェクトスタート直後からR18に関わってきた2人も、この日初めてプロトタイプを目の前にして昂ぶる期待感を隠せなかった。

「戦前のイメージがよく出ているな」

46works / 中嶋 志朗

BMWカスタムの世界的第一人者であり、R nineT カスタムプロジェクトでは“Clubman Racer”を発表した中嶋。初めて目にするR18を前に「もっと50年代や戦前モデルに寄せていく作業もやってみたい」としながらも「いかに走りの方向に持っていけるかにも挑戦したい」と語り、カフェレーサー製作やクラシックレースでの豊富な経験など自身のバックボーンを活かしたカスタムビルドへの思いを馳せた。

「これがコンセプトでもおかしくない」

Wedge Motorcycle / 二平 隆司

2016年のYOKOHAMA HOT ROD CUSTOM SHOWでG 310 R ベースのフラットトラックカスタムを発表し、一躍その名を世界に知らしめた二平。「想像していたような市販車のイメージとは大きく違った」と語り、エンジンと車体各部のバランスが生み出す絶妙なシルエットに着目。さらに「量産車にもかかわらず、デザイン性をきちんと両立させている」と、そのスタイリングを評価した。

「素直にかっこいい」

Cherry's Company / 黒須 嘉一郎

R nineT カスタムプロジェクトで発表した“Highway Fighter”が世界に大きな衝撃を与えた黒須。これまで数多くのカスタムバイクを手がけ、YOKOHAMA HOT ROD CUSTOM SHOWでも数多くのアワードを手にしてきた名うてのビルダーは「開発がエンジンからスタートしたのか、車体からスタートしたのか。そこが知りたい」とバランスの良いシルエットが生まれたその経緯にも大きな関心を寄せた。

「メーカーが作ったとは思えない」

HEIWA MOTORCYCLE / 木村 健吾

チョッパーからスクランブラーまでヴィンテージバイクをベースにしたカスタムを数多く手がけ、2016年には“R nineT Scrambler No 001”を発表した木村。R 18の大胆なスタイルに驚きながらも、「車体も大きいのでエンジンだけがクローズアップされるわけでもなく、うまく馴染んでいる」と第一印象を語り、エンジンと車体の絶妙なバランスにこだわるビルダーらしいひと言葉を残した。

「市販車じゃ見たことのないインパクト」

HIDE Motorcycle / 富樫 秀哉

2014年のR nineT カスタムプロジェクトではフルフェアリングのカフェレーサー、“Boxer”を製作したビルダー、富樫。実車を前にして「車体のナローな感じとエンジンのデカさ。これはカスタムバイクの見せ方に近い」とカスタムビルダーの視点からR 18を評価。また「昔のBMWをオマージュしながら、現代でもきちんと乗れる。できそうでできないデザインだと思う」とも付け加えた。

「子持ちラインがいいですね」

Animal Boat / 武笠 大輔

2017年に日本を舞台にして製作されたR nineT Racerのプロモーションムービー“BORN TO BE AN ICON”で大々的にフィーチャーされた武笠は、R 18を前にしてまず空冷エンジンとオープンシャフトドライブの造形美を評価。「R 50とか、あの辺の雰囲気を残していて、子持ちライン(=2本のビンストライプ)もいいですね」とクラシックバイクに造詣の深いビルダーらしいコメントを寄せた。

「エンジンの存在感だね」

Ken's Factory / 永井 健次

独創的なビレットパーツを盛り込んだカスタムビルドで世界にその名を知られるビルダー、永井。“BMW K 1600 Ignite Straight Six Project”ではK 1600シリーズの新たな方向性を示唆した。そんな永井も“Big Boxer”の存在感に驚きつつも「これだけデカイエンジンでカフェレーサーを作っても面白いと思うし、フレームもいい感じだからチョッパーにもできそうだ」と、R 18が持つカスタムの可能性にも言及。

「ああ、やられたと思ったの」

HOT-DOCK CUSTOM CYCLES / 河北 啓二

“BMW K 1600 Ignite Straight Six Project”では独自の世界観を爆発させたカスタム“JUGGERNAUT”を製作した河北。R 18が抱く“Big Boxer”エンジンの存在感が完璧と評価しつつも「マフラーのラインがとにかく綺麗ですよ。タンクのラインも小ぶり。BMWではこんな小さなタンクは初めてじゃないかな。とても綺麗だし、クラシックな雰囲気もあって……」と、車体各部の造形美にも着目する。

